

魔法
騎士

Magic Knight Rayearth
Fan Book Vol.6

Clef × Umi
R18





いさ
道に迷った
みたい！

~~~~~

##  
#



疲れて空は  
飛べないし！

一度来た道を  
戻った方が！

あれ……？

##  
##











……この人……

……人間……？



わ、私は侵入  
なんて……！



名を名乗るなら  
私の敷地に無断で  
侵入してきたお前が  
先ではないか？







おまけに罾が  
ぎよーさん仕掛け  
られとって

とにかくウチら  
魔族にとつては  
危険な場所なんや



でもそんなに危ないって  
分かってるならどうして  
あの人達結界の近くを  
ウロウロしてるの？

大魔導師級の『精气』は  
極上品や言われとる  
さかい

結界の外で出待ち  
しとるんやろ



とにかくや

興味本位なんかで  
近寄ったら絶対に  
アカンで？



はい

そうだね。

気を失う直前に  
見えたのは……

大魔導師の  
館……!!



まさか  
あの結界の中に  
入ってたなんて……

でも待って……

それなら  
どうして……

どうして私……  
生きてるの……!?



……お前……



罾が作動した形跡も  
無いので最初は  
人間かと思ったが……

一体何者だ







あの…  
どうも  
ありがとう…

まったく…

魔族の…  
それも淫魔の  
小娘に施しなど  
どうかしている…

知ってたの？



ごちそう  
さまでした♡

おいしかった！♡



未熟なうちは  
今のうちに  
薄い色を  
しているが…

やがて成熟し、  
紋章が黒く  
浮かび上がると

人間と同じ食事では  
満たされなくなり  
次々と男を狩るよう  
なる…

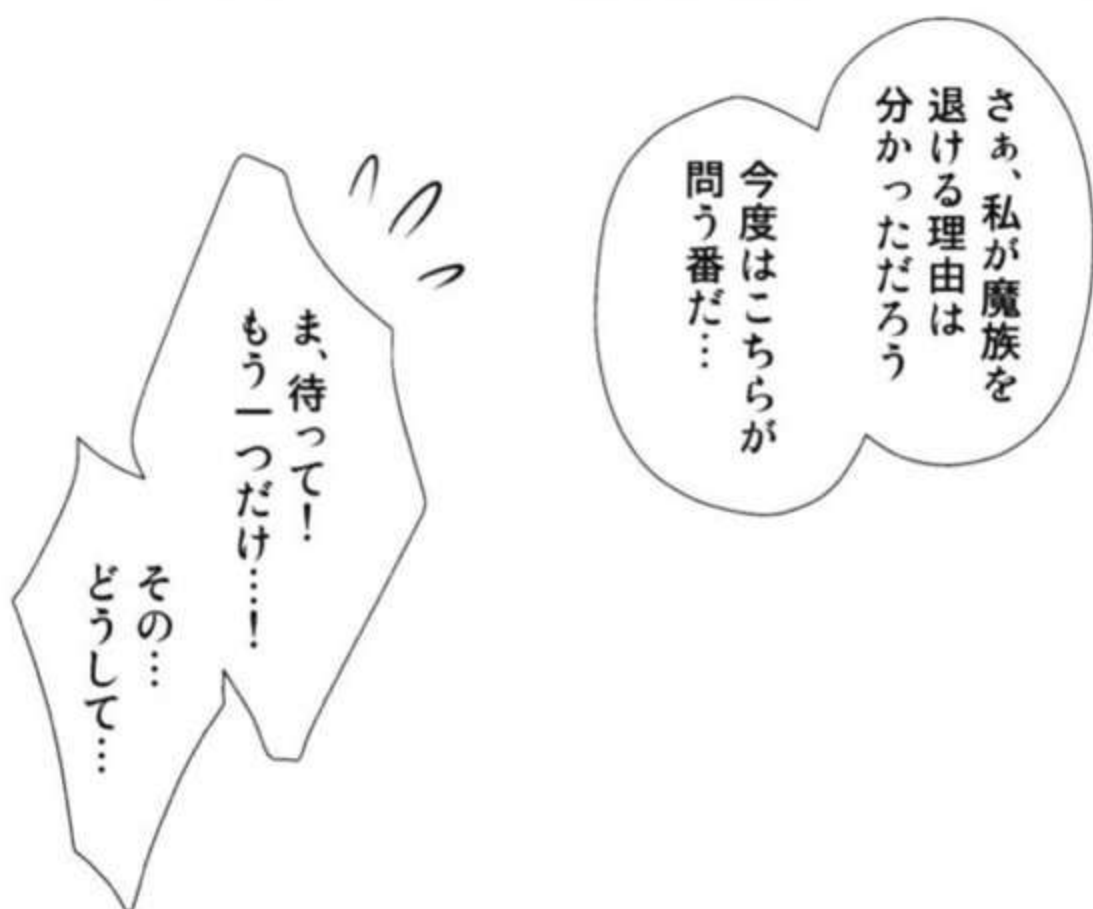


お前の腹部に  
かすかに淫魔の  
紋章が見えた…

はっ











どうして  
子どもまで  
拒むの…？

あなたの結界：  
無害な赤ちゃんでも  
区別しないんでしょう？

もし私みたいに  
迷い込んだら  
死んじゃうって  
分かってるのに…

細かい区別  
など出来ん  
それだけだ

大魔導師なのにな？  
もしあなたが  
そんなに冷たい人なら  
魔族の私に食べ物を  
与えたりしないと  
思うの



……

悪魔に殺害された  
魔導師の中に  
私の友が居た…

え……



淫魔への恋慕に  
心を悩ませていた  
その男は

決して魔力が  
弱っていたわけ  
ではなかったが  
襲撃の予兆に  
気付いていなかった…

予兆…？

友に  
差し向けられた  
悪魔は少年だった…



そんな…

あれは  
約一年前の事…

深夜に私の元へ友から  
緊急を知らせる  
信号が届いた…

駆け付けた  
私が目にしたのは  
夥しい血と  
瀕死の友の姿…



友は今際の際に  
こう言っていた…

怪我をした  
悪魔の孤児を  
密かに保護  
していたと…

そして…自分が  
かつてその少年の親を  
不運にも死なせて  
しまったと…

魔界は少年の  
復讐心を利用し  
啖けたのだ…



それ以来我々  
魔導師は淫魔を  
含む魔族を警戒し  
関わりを避けた…

…ひどい…

魔族は危険な存在…  
信用に値しない  
のだと…



それが  
たとえ…





友を襲撃した悪魔も  
お前のように  
偶然を装って標的に  
近付き：

巧みに『悪意』を  
隠しながらその機会を  
伺っていたのだろう：

お前達魔族が手段を  
選ばぬというのなら  
私もけして容赦は  
しない：

何これ：  
何かおかしい：

だがすぐには  
殺さん：

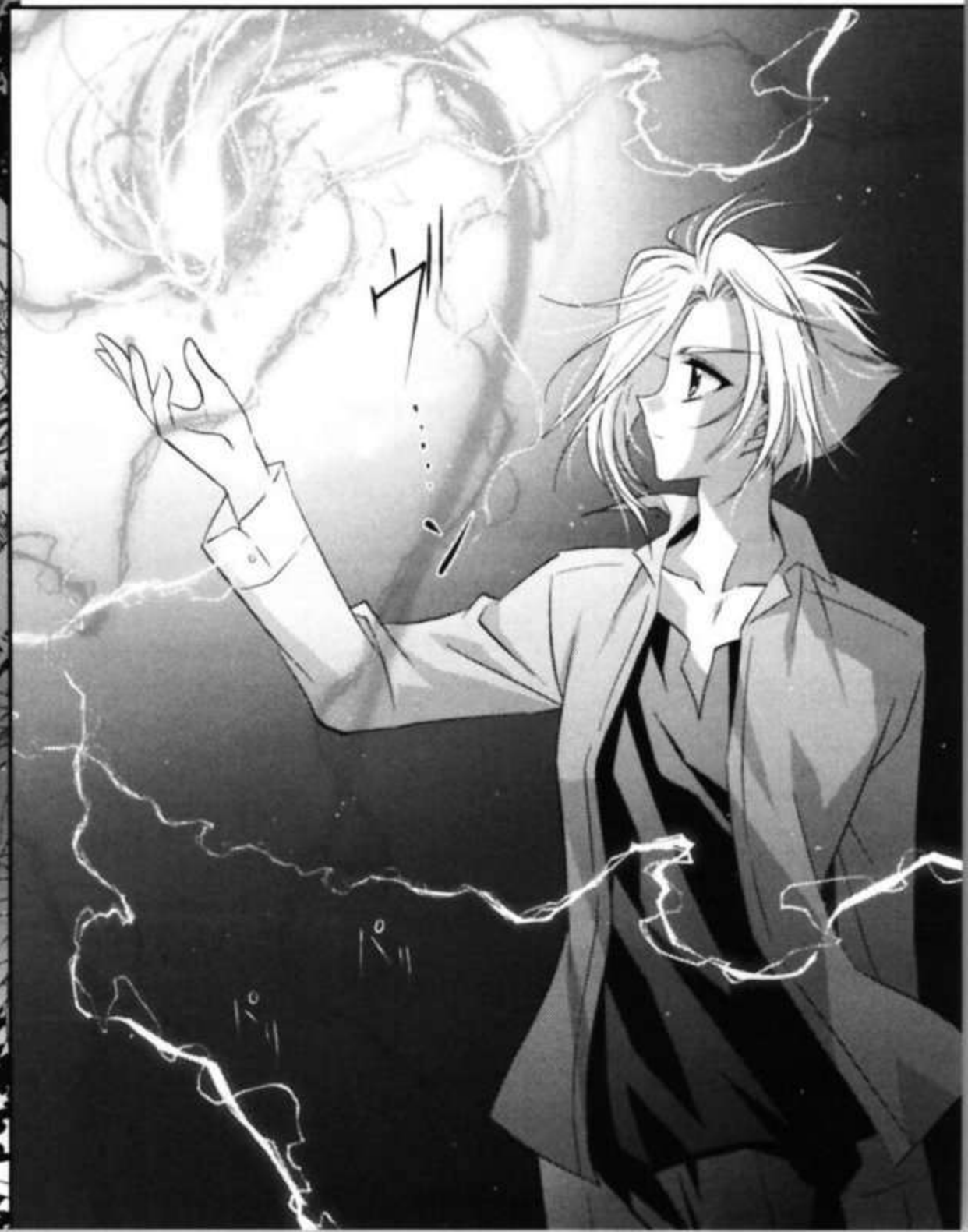
お前を殺してしまえば  
私の魔法が効かぬ  
理由を探る機会を  
失ってしまうからな：

怖い…!!

これ以上  
ここにいちや  
いけない！

逃げなきゃ…!!

身の潔白を  
証明したいのなら  
大人しく私に：



はあり  
怖かった…

ここまで  
来れば大丈夫  
だよね…

……



怖かったけど……  
逃げて来ちゃって  
良かったのかな……



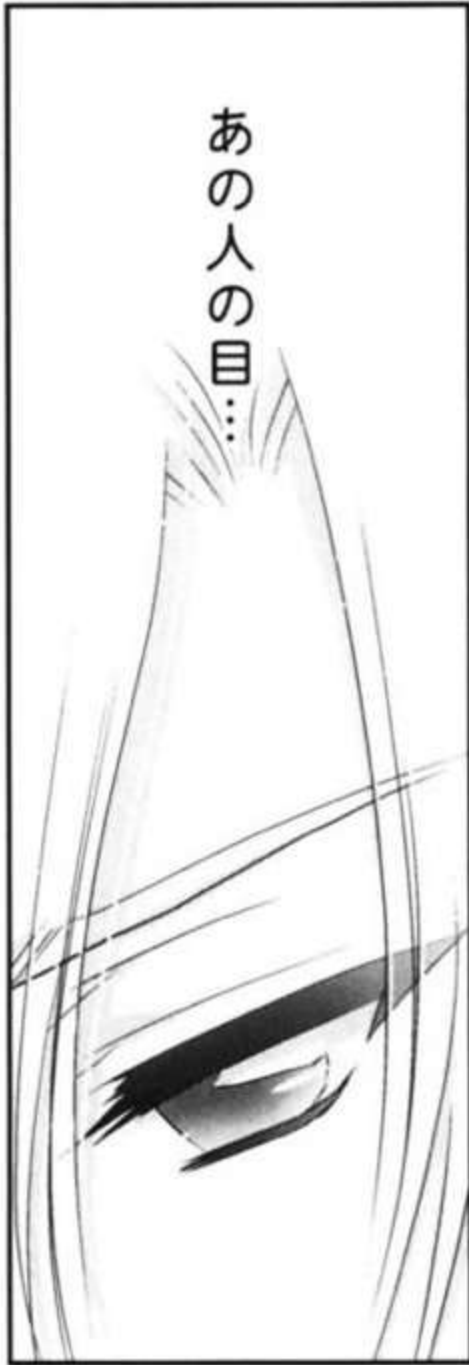
悪い人じゃないと  
思うし……ちゃんと話せば  
私は敵じゃないって  
分かってくれたかも……  
でも……

なぜかあの人は  
一緒にいちゃいけない  
ような気がして……



……

あの人の目……



すごく  
寂しそうに  
見えた……



友に  
差し向けられた  
悪魔は少年だった……

……



あれ？



私だって……



そうだよね……

お友達をそんな形で  
失えばすごく寂しい……



そういえば私……  
あの人の名前  
聞いてない……

私も結局  
名乗ってない……



わ、私っては何  
落ち込んでるん  
だろ！

次に会ったら  
拷問されるかも  
しれないのに……！





ねえあんな…

さっきあの館から  
出てくるの  
見たんだけどさ…

どういう事？

なんであんなみたいな  
ガキの魔族があんな館に  
入れるわけ？

どうやったのか  
教えな

……この人達…

私と同じ…

ドクン

どうしよう…  
見られてた  
なんて…

ドクン

そんなの…

知らな…

ドクン

ぎゃう

ドクン



隠すために  
なんないよ？

クア

クア



う…



なんか見覚えが  
あると思ったら…  
確かコイツ…



ちよっと見てよ  
この子淫魔の  
紋章がある

って事は  
まさかコイツ  
彼と寝たの!?

そういう匂いは  
しないけど、暫く  
一緒にいたのは  
間違いなさそうね

あ  
そういえば  
このガキ…!

何？  
知ってるの？

や…っ

出来損ないの  
『人間淫魔』だよ

人間淫魔？  
何それあだ名？

このガキ、あたしと  
同じクラスの  
カルディナがこの前  
下界で拾って面倒見てる  
新入りなんだけどさ

淫魔のくせにやけに  
発育が悪いし、おまけに臆病で  
皆に『まるで人間みたい』  
ってバカにされてんの

しかもどこで産まれて  
誰に育てられたのかも  
分かってないらしくて  
得体が知れないから  
気味悪がられてんだよね

なるほど…  
だから『人間淫魔』  
ってわけね

じゃあもし本当に  
この子が淫魔のフリを  
した人間だとすれば

あの強力な結界の  
影響を受けなかった  
のも納得がいくわね

じゃ、仮にコイツの  
正体が人間だとして…  
どうしてそんなキメラが  
彼の館に居たのかしら？

ひょっとして  
彼に改造されて  
スパイとして調教  
されてたとか？

だとしたら  
失敗作だけどね

でも魔界の連中に  
大魔導師がそんな事  
企んでるって  
バレたらヤバそ

まあ：彼と関係が  
あろうがなかろうが、  
結界を自由に出入り  
できる魔族を彼が放って  
おくとは思えないし

しっかり  
有効利用させて  
もらわないとね…

困る♡



それナイス  
アイデア！

確かにバカ真面目に  
出待ちしたって  
どうせ殺される  
だけだしねえ

だから  
コイツを使って  
彼を脅せば…



ぽわ〜ん

や、  
やめて！



私を囿にしたって  
あの人は来ないわ！

私が逃げ出しても  
追って来ないのは  
私が邪魔だからよ！

私はあの人にとって  
都合の悪いただの…



とんだ  
誤解だな…





え……

〜

だ……

✂ ♡♡



大魔導師  
クレフ…!!

クレ…フ…?!

どうして…

まったく…  
邪魔な小娘なら  
結界を解除してまで  
館に招き入れたりなど  
しないだろう…

ま、待ちなよ!  
そのガキ連れ込むために  
わざわざ結界を  
解除したってわけ!?  
そ、それじゃまさか…

ロリク…

立ち去れ

死にたく  
なければな…

は、はい…

あーん  
直接なら  
殺されるなら  
本望です…

もっど  
眠って…

ガキ

そこで  
休んでいる

あ、あの…  
どうして…

また助けて  
くれたの…？

あんなに嘘  
ついてまで…

私が送り込んだ間者だと  
疑われるような娘が  
私の命を狙っているとは  
考えにくいのでは

ず、ずっと  
聞いてたの？

お前を泳がせ  
監視していれば  
背後関係を探れると  
思ったからだ

……

それじゃ  
あの時わざと  
逃がして…



だが、お前がただの  
迷い子だとしても  
解放してやる事は  
出来ん

魔界へ渡せば  
お前の力を利用  
される恐れがある

その力を解析し  
対策を講じるまでは  
結界の外に出すわけ  
にはいかぬ

良いな？

……うん……



分かってる…

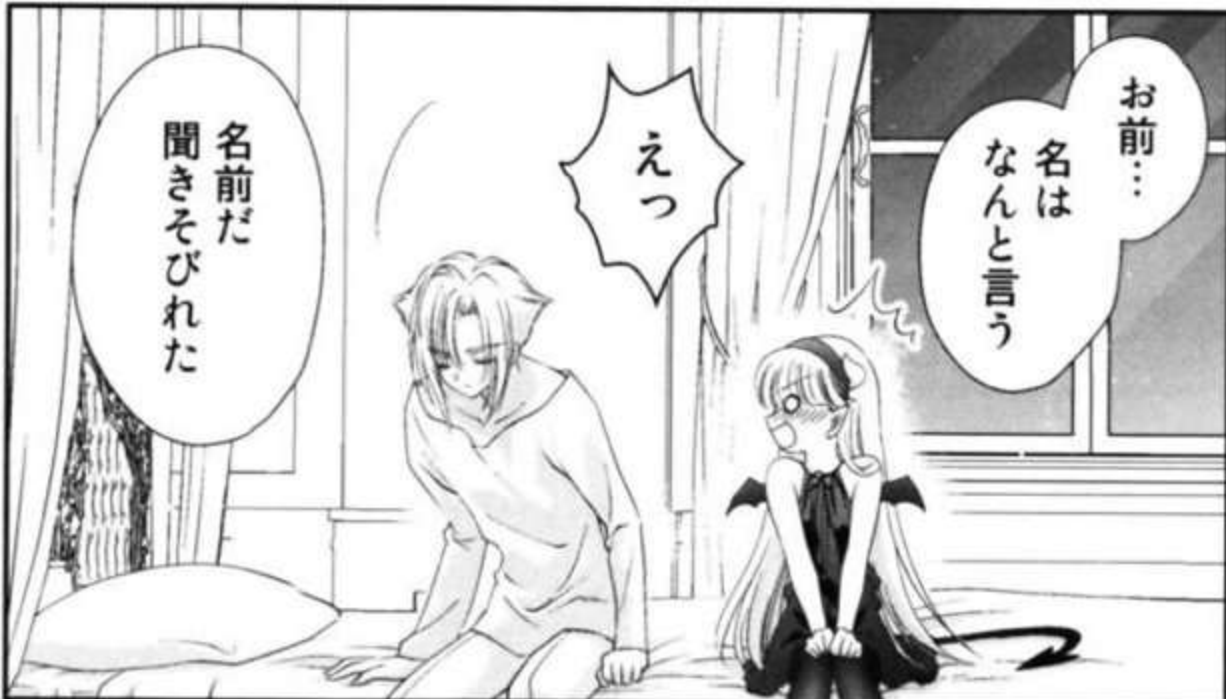


私のためなんか  
じゃないって…

分かってるのに…



どうしてこんなに  
胸が痛いんだろう…



お前…

名は  
なんと言う

えっ

名前だ  
聞きそびれた



では  
ウミ…

単刀直入に  
聞こう…


お前の両親だが…



う…

海…





どちらかが  
人間だな……？



人と魔族の混血！  
それはあまりにも  
希少な存在ゆえに  
すぐに気付く事は  
出来なかったが！

妙だと  
思っていた！  
お前からは  
魔族特有の邪気が  
感じられない！



な、何言って…

ドクン



お前が言っていた  
『人に本気で恋をする淫魔』  
とはお前自身の家族の事  
ではないのか？

……



気付いていた  
はずだ！

お前の中に流れる  
人間の血がその身を  
守っていると！



……うん……  
誰も知らない……

そうか……  
その事を誰かに  
話したか？

知られたら  
追いつききれちゃう  
と思ってる……



……  
父よ……



古来より『混じり者』  
として忌み嫌われ……  
その多くが生後間もなく  
『処分』されてきた……

お前がこれまで  
生き延びてこられたのは  
両親がお前を世間から  
隠し、守ってきた  
からだろう

パパ……  
ママ……



『間引き』だ……



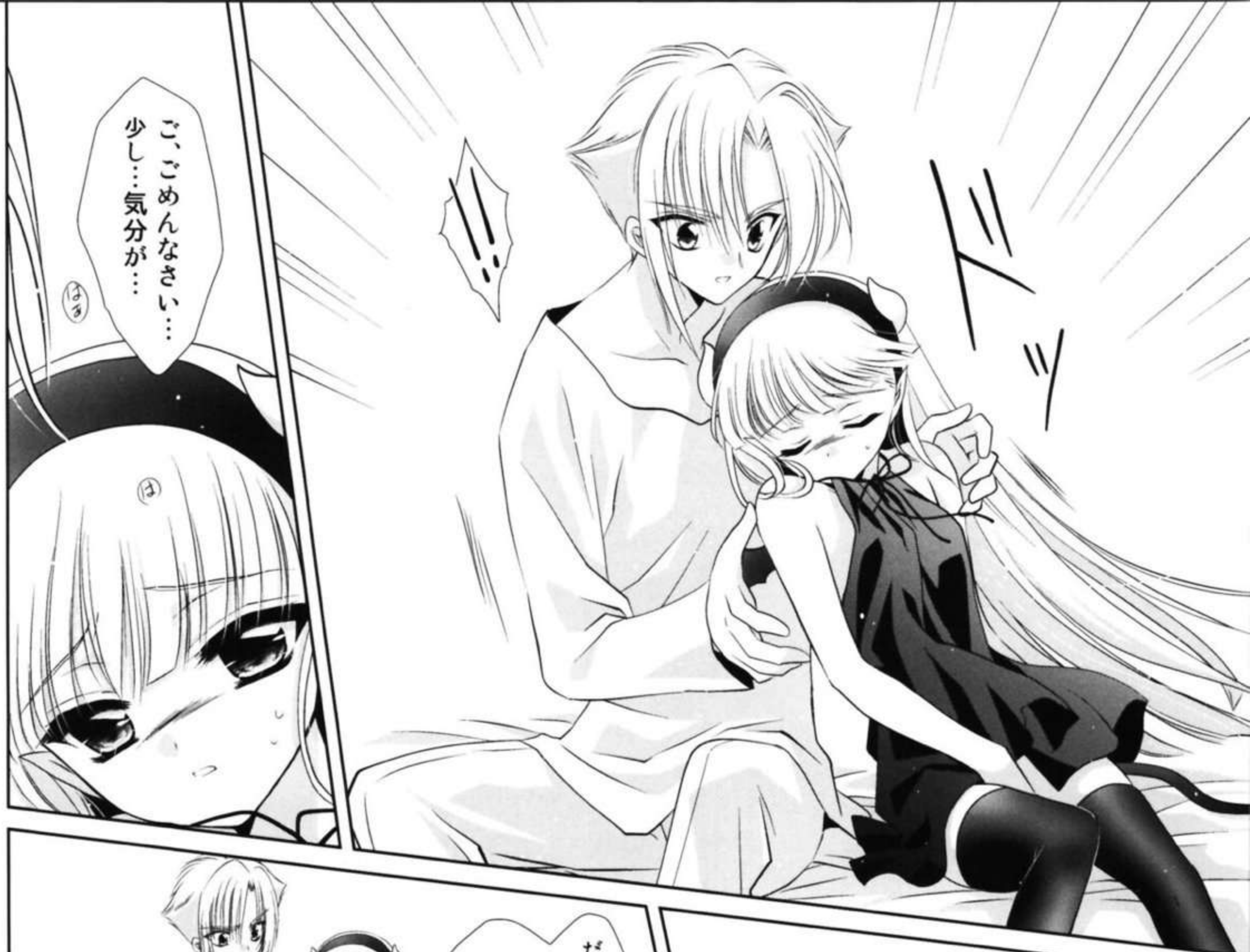
殺されるぞ

え……

お前のような混血が  
希少である理由には  
異種間ゆえの受胎率の  
低さもあるが……

もう一つ……  
その生存率を低下  
させている大きな  
要因がある……





ご、ごめんなさい…  
少し…気分が…



だ…大丈夫…  
ただ…お腹が  
空いてるだけ…  
だから…

キシ

何…?



妙だ…  
ただの疲労で  
ここまで『気』が  
減るはずは…



変だよ…

さっき…  
食べたばかり  
なのに…

それに…

空腹のはずなのに…  
何も食べたくない  
なんて…

私…病気かな…

……



発達期の…  
それも空腹の最中、  
『上等な獲物』が  
傍に居れば  
無理も無い…

淫魔が獲物の『気』を  
取り込む体の仕組みは  
複雑で高度なものだ…

最適な肉体へ  
作り変えるために  
多くのエネルギーを消費  
しているのだろう…

それって…

わ、私は  
半分人間だし、  
無理すれば何か  
食べられるかも  
…!!

やめておけ…

紋章の濃さを見るに  
必要なエネルギーが  
完全に変化して  
しまっている…

その状態で無理に  
精気以外を摂取すれば  
どんな影響が出るか…

そんな…

それじゃ…

それじゃ私…

もう…  
人の精気を  
喰らわなければ  
生きていけないの  
…!?

……やだ…

怖い…!!

そんなの  
やだ…

狩りなんて  
したくない…!

淫魔は  
その瞳の魔力で  
男を虜にすると  
言います…





さすが  
大魔導師

誘惑された  
覚えなど  
無いがな



俺も…



それは  
忠告か？

まさか…

あなたには  
どんな上級淫魔の  
誘惑も効かないと  
有名ですから…



お前…まさか…

馬鹿馬鹿しいと  
思うでしょう…

だけど俺は…



あなたのように  
強ければ良かった  
のに…



彼女を  
愛してる…

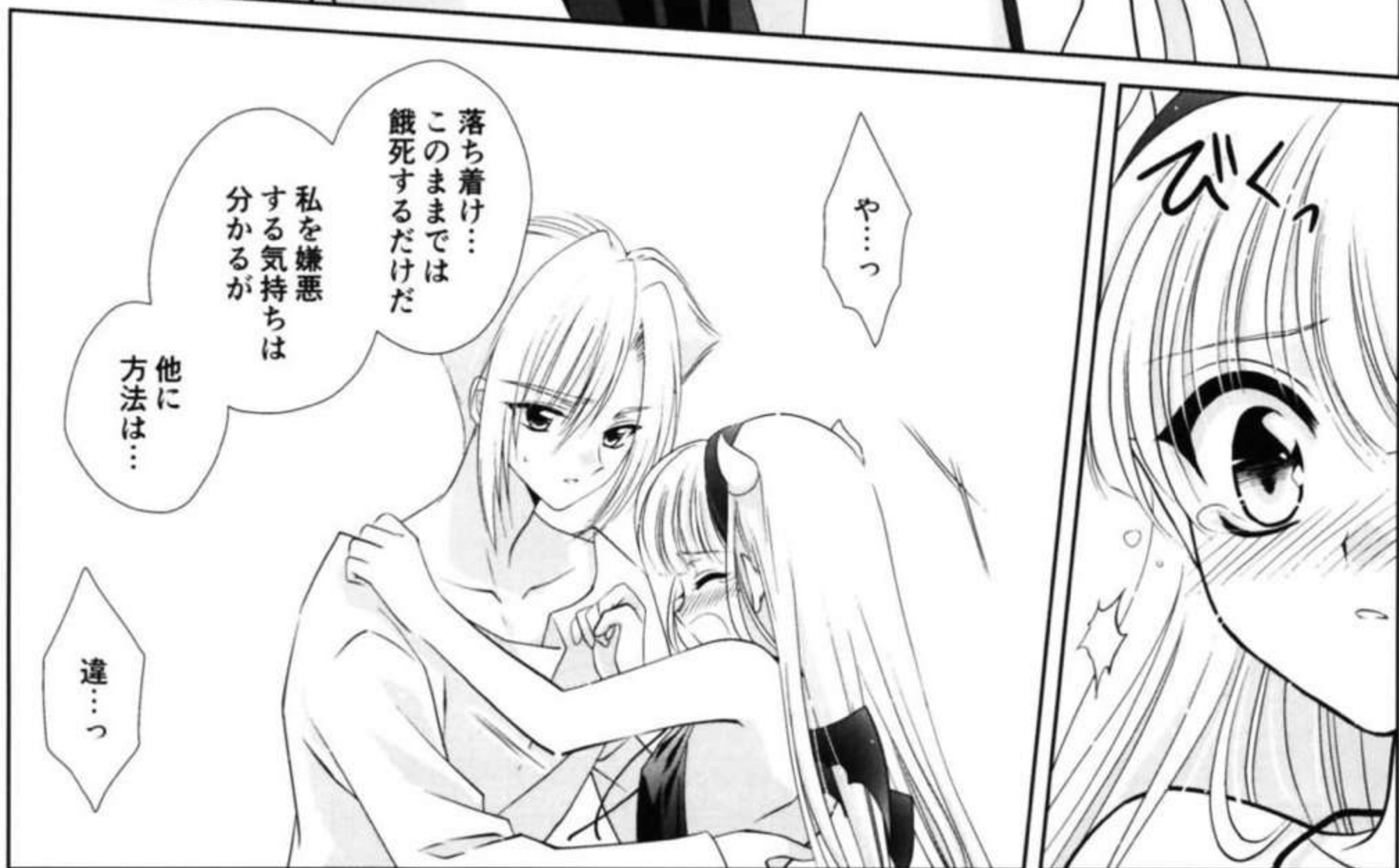


破滅への道だと  
分かっていても…

どうする事も  
出来ないんです…









違うの…!

嫌なわけ  
無い…!

だけど  
私は…

あなたに  
愛されてない…!!



私は半分  
淫魔だけ…

可哀想だなんて…  
仕方がないなんて  
思わないで…



『愛』が無いのは  
無意味なんですよ  
…?



ただ飢えを満たす  
ためだけに…

あなたにこんな事  
させたくない…!!



それにもし…  
もしあなたが  
愛してくれたって…  
私は…

初めての  
『恋』だと思った…

だけど  
気付いてしまった…

この気持ちは  
『本物』じゃないって…



分かるの…

私がここに  
迷い込んだのは

ただあなたに  
引き寄せられてた  
だけ…



あの人達と  
同じなの…!



愛しても…  
愛されても  
いないって  
分かっているのに…

でも……


ママみたいに  
たった一人の人を  
愛し続ける  
一途な女性に  
なりたい…

私だって…

空腹が  
満たされれば  
この気持ちは  
消えてしまう  
かもしれない…

本能がこの人を  
「獲物」として  
求めてるだけ…





救済なんて  
嬉しくない…

あなたの  
慈悲なんて  
欲しくない!!







だがけして  
お前を死なせは  
しない…



これが『慈悲』  
だと思うなら  
それでいい…



この選択が  
どんな結果を  
招こうとも…

どんな未来が  
訪れようとも…







心変わりなんて  
したくない…

死んだっていい…  
このままで  
いたい…

だから  
お願い…

もう放って  
おいて…

ん…

大丈夫だ…

お前の心が  
どう変わろうと…

もうどこへも  
行かせない…

お前の  
居場所は  
ここだ…

ト  
ク  
…

私の…  
居場所……？

ほんとに……？

ほんとに私が私で  
なくなっても…

ずっと  
傍に置いて  
くれるの……？







「飢え」が私を支配していく...

体が...獲物を求めている...

触れられるたびに全身がとろけそうになって...

トーン







何も  
考えなくて  
いい…

本能に抗うな…

欲しいまま  
私を求めろ…

私が全て  
与えてやる

だめ…  
これ以上  
されたら…私…

痛みは無い  
はずだ…

クレ…ふ…

クレ…ふ…





全身に火が  
点いたみたいだに...

何...これ...



熱い

きやう



だめ...

こんな...

こんなの...



おかしく  
なる…!!



サキ...



ムムム

は  
……くれふ……



それでいい……

そう……



する……



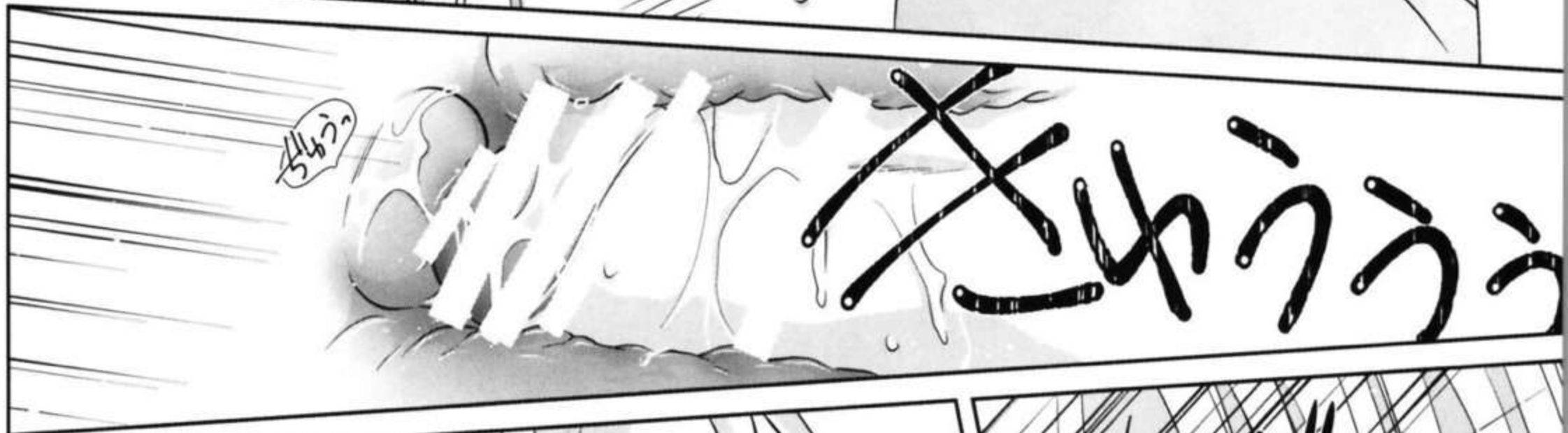
お腹の奥が  
疼く……

もっと……

もっとあなたが  
欲しい……

クレ……フ……

くれふ……





な…に？

お腹が熱い…！

奥…に…  
何かが溜まって…

どんどん  
全身に  
広がって…



これが…  
あなたの…

ああ…  
これが…





人の『精気』を  
喰らうという事

とん

する...



え...  
クレ...

ぐんぐん

ギン

ぐんぐん

ぐんぐん



びん

びん

びん

ギン

クレフ…  
待…て

力が戻ったの  
だろう…?

だがどこへも  
逃がしはしない…

違…っ  
逃げるつもり  
なんて…



もわ  
うた  
し…  
…

あー  
あー  
あー

ひん

ひん  
ひん







ク、クレフ……

私……体が……



クレフ…？

……



目が覚めたら  
大きくなって…



はっ

フ…

なぜ  
ここに…



わ…わたし…



なぜ  
逃げなかった…

お前がここに  
留まる理由など  
無いはずだ…

やっぱり…  
逃げるなんて  
考えられなくて…

あなたのそばに…  
いたくて…

へ、変かも  
しれないけど…

…何…？

…暫く…  
様子を見て  
みよう…

…うん…

消えてほしく  
ない…

あなたへの  
気持ち…

このまま  
ずっと…

…だが…

まだ  
分からん…

あ、あの…  
これって  
つまり…

！  
お前は人間  
との混血…  
すぐには変化しない  
可能性もある…

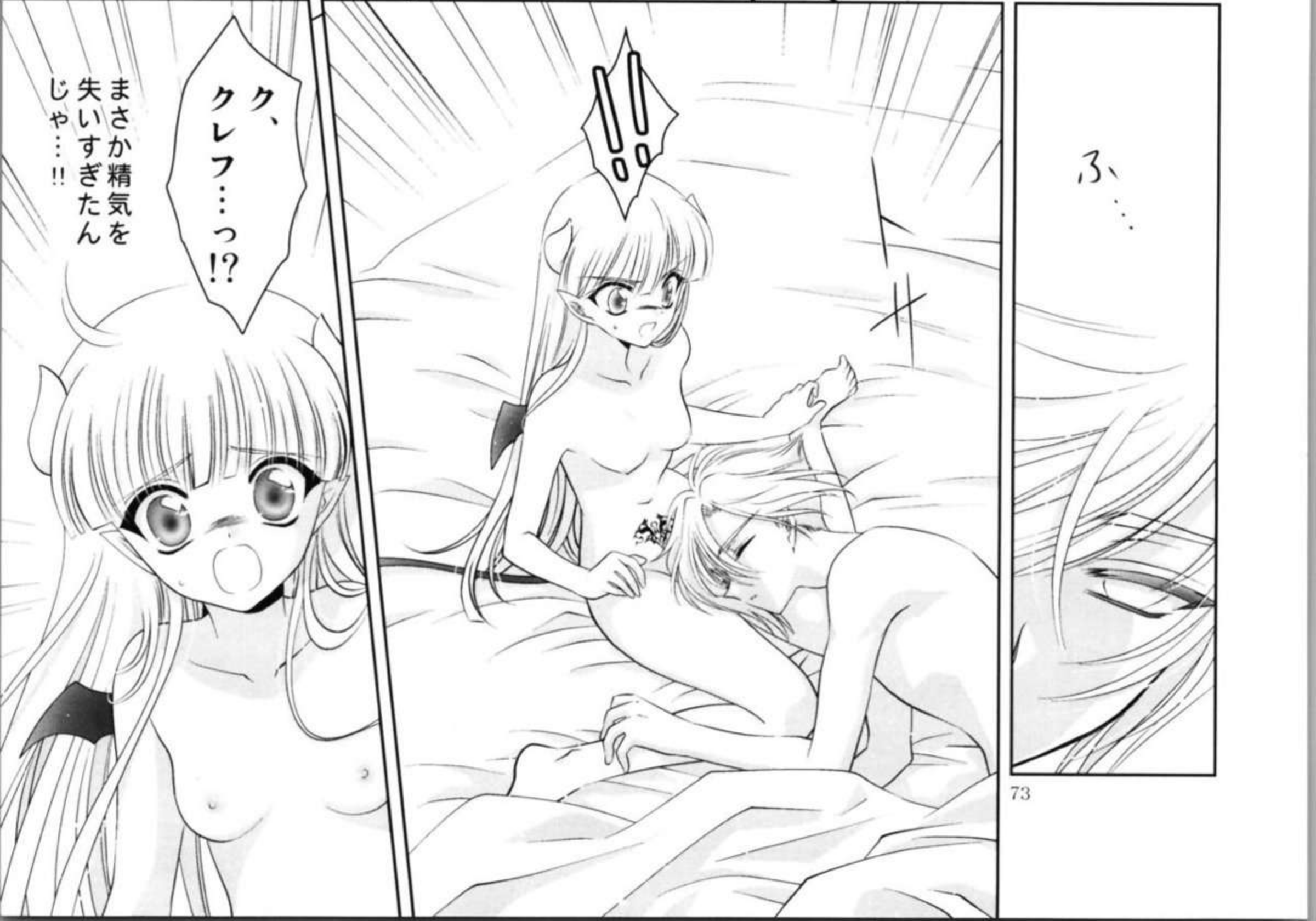


美しくなったな...

...ふふふ...



え  
ドキーン!!



ク、  
クレフ...っ!?

まさか精気を  
失いすぎたん  
じゃ...!!



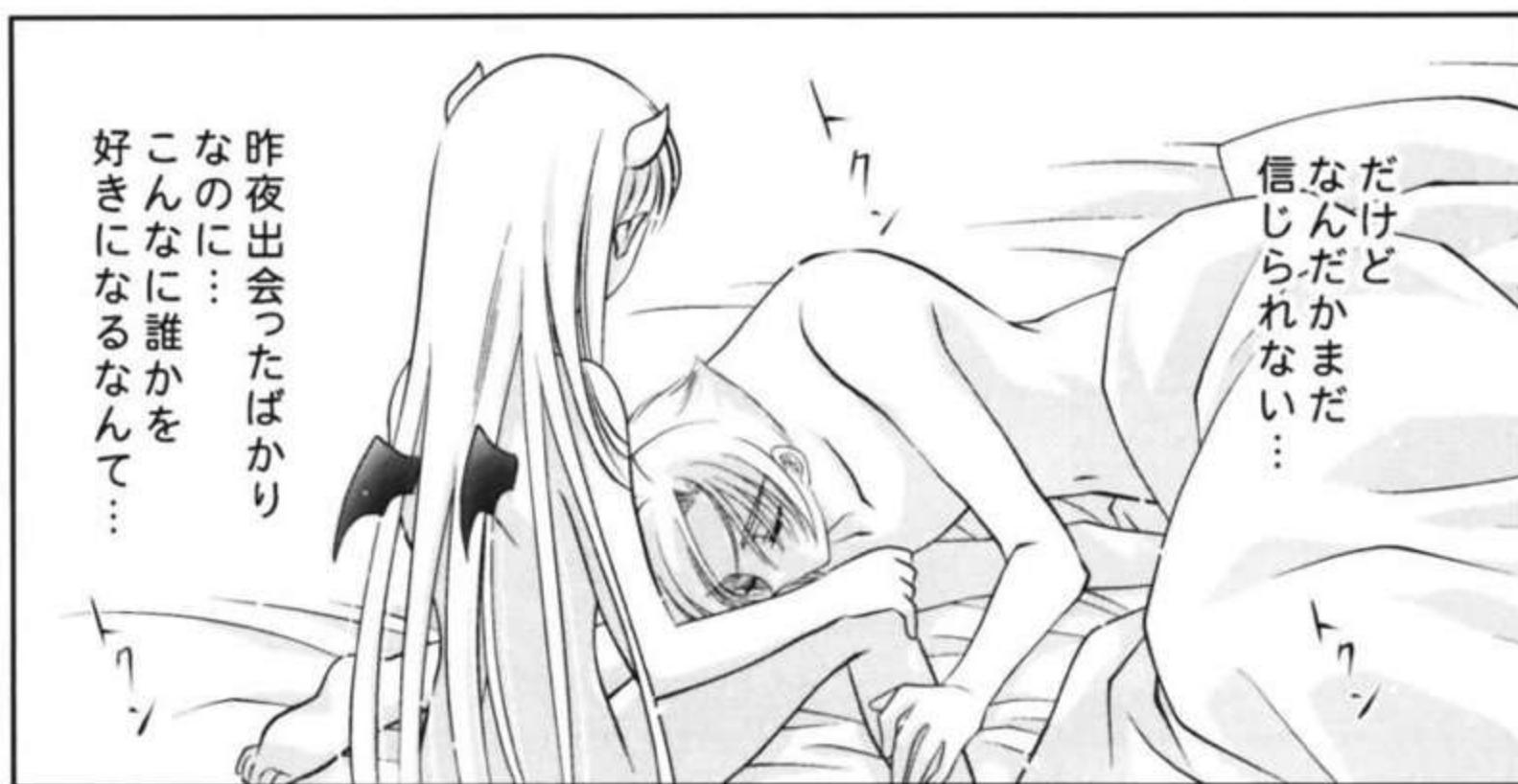
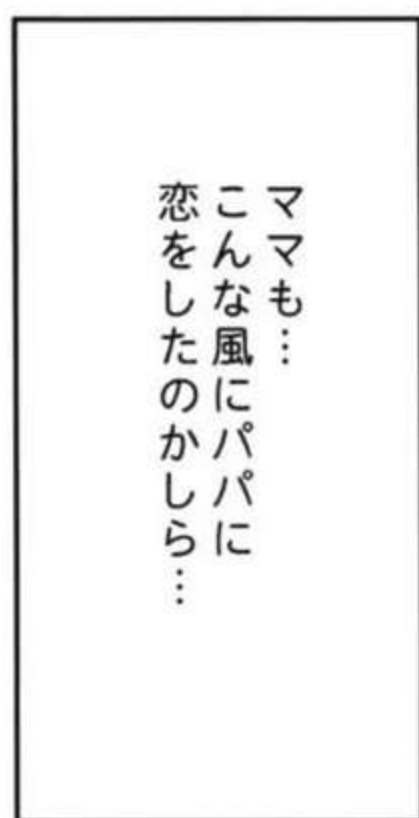
ふ...





でもそんなに心配なら  
鎖にでも繋いで  
おけば良かった  
のに…

逃がさないとか  
言ってたくせに…



ママはとて一途で…  
パパだけを  
愛し続けてた…

そう…

どんな時だって…  
パパだけを…

頼む…  
君を失いたく  
ない…

辛いだろうが…  
どうか僕の  
代わりを…

心配  
しないで…

私は平気…

きっと大丈夫  
だから…

ずっとそばに  
いるわ…

…ああ…

そっか…

ママは全部  
分かってて…

それでも…





一カ月後

もう  
半日も留守にするなら言ってくれば良かったのにー

隣町までお友達のお墓参りって言ってたけど目的はそれだけじゃなかったのね？

すまない

あの町には様々な分野の魔導書が豊富に揃っているのだから…

つい  
長居してしまうので  
退屈だろうと…

ふん  
それで  
お目当ての本には  
巡り会えたの？

ああ、  
この通り…

キレイ！  
真珠みたい！

これを精製する  
方法を探して  
いたのだ…

いつか必要になる日がある  
やもしれん…

何に  
使うの？

これは  
『保険』だ

保険？



お前が淫魔として  
成長した今…  
生きる上で『精气』の  
補給は不可欠…

だが…もし私の身に  
不幸が起き、代わりの  
男を狩らねばならなく  
なったとしたら…

え……



…そうか……



お前と出会ってから  
一月ほどが経つ…

お前のその  
反応…

やはり私達の『相性』は  
良いと判断すべき  
なのかもしれん…



嫌か…?

い、嫌に決まってる  
じゃない…!

あなた以外の人  
なんて…!

しかしそれは  
単純に喜べるような  
話ではないのだ

ウミン……

淫魔にとって  
『相性』の良い人間  
というのはそれだけ  
『執着』『依存』を招き……

他者の『気』を  
強く拒絶するように  
なっていくのだと言う……

今の  
お前のように……

そうよね……

大魔導師である  
あなたが気付かない  
はずない……

……っ……



それがどれほど  
過酷な運命か：

間近で見ていた  
お前なら良く  
分かるはず：



生も死も：  
一人の人間の手に  
委ねられ：

その生涯を  
支配される：



これは私から  
抽出した『気』を  
結晶化させた  
もの：

恐らく一つで  
一度の補給に相当  
する効果が得られる  
だろう：



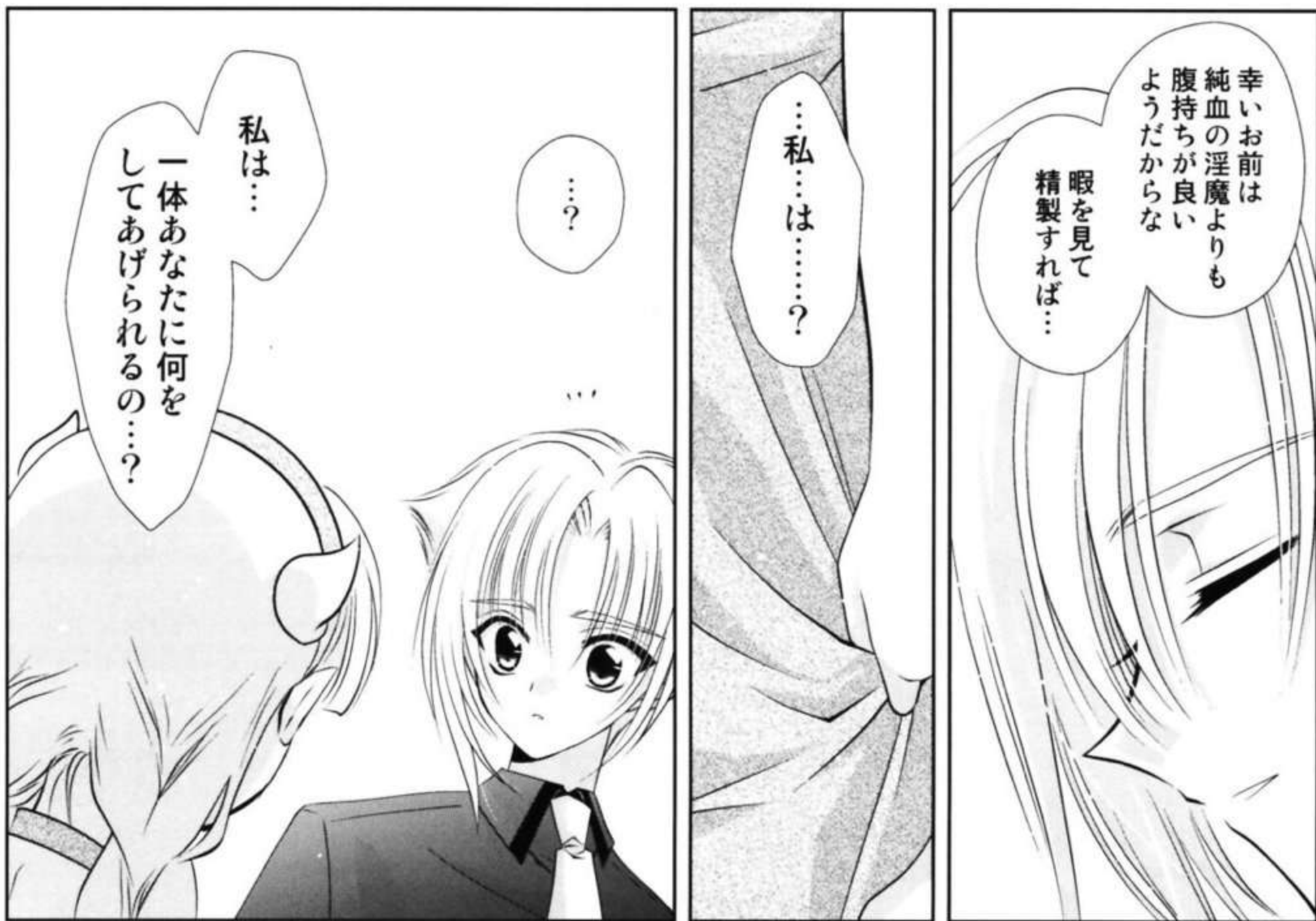
備えるに  
越した事は  
ない：

ギッ



こんな物が  
必要になる機会など  
無ければそれが  
一番良い

しかし未来の事は  
誰にも分からん



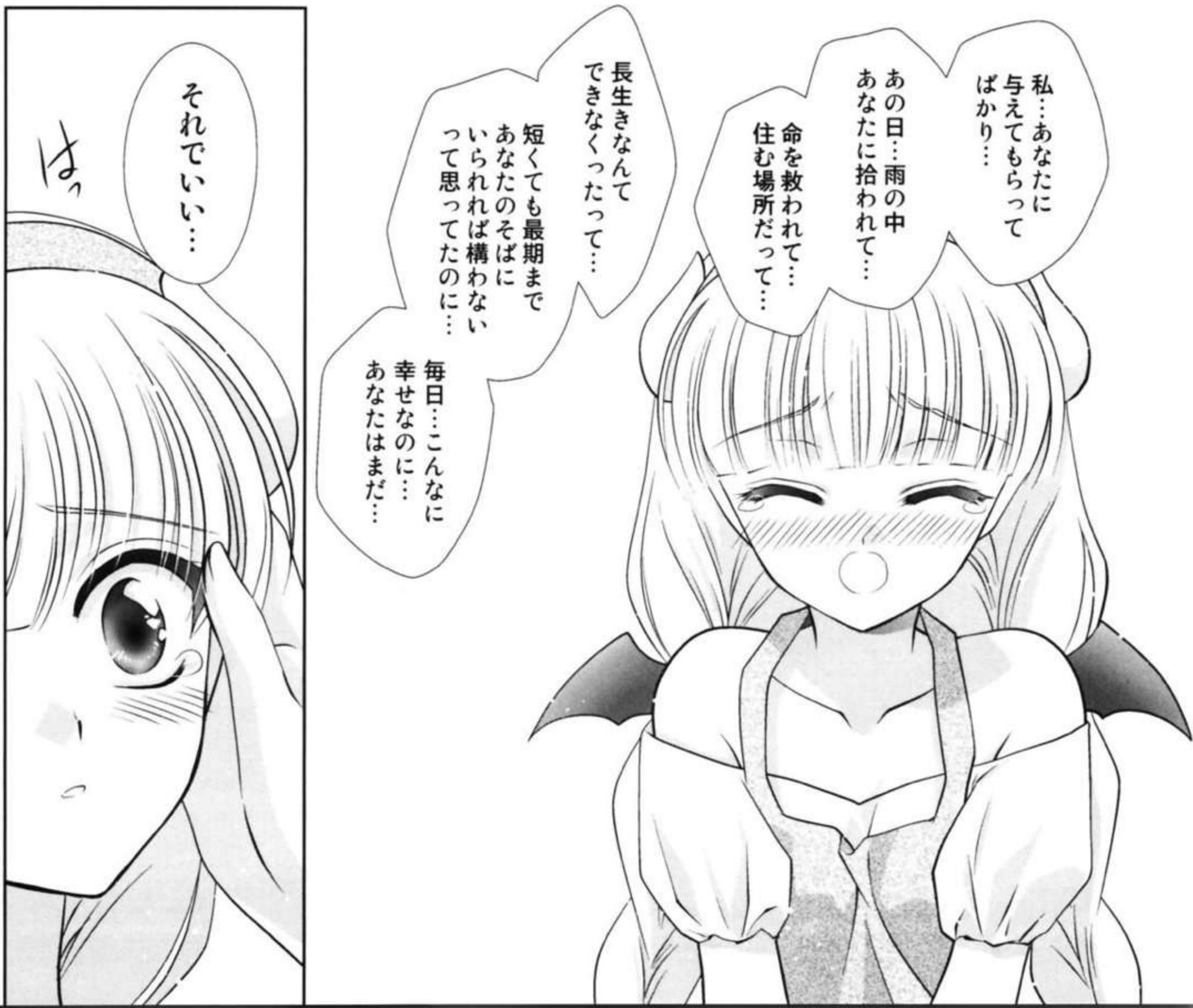
幸いお前は  
純血の淫魔よりも  
腹持ちが良い  
ようだからな

暇を見て  
精製すれば…

…私…は…?…?

…?  
…

私は…  
一体あなたに何を  
してあげられるの…?



私…あなたに  
与えてもらって  
ばかり…

あの日…雨の中  
あなたに拾われて…

命を救われて…  
住む場所だって…

長生きなんて  
できなくなっちゃって…

短くても最期まで  
あなたのそばに  
いられば構わない  
って思ってたのに…

毎日…こんなに  
幸せなのに…  
あなたはまだ…

それでいい…

はっ



お前が今『幸せ』だと  
言うのならそれで  
充分だ…

お前が  
『幸福』である事…  
それが私の  
生きる『糧』となる…

…何…よそれ…

覚えていてほしい…

お前に救われ  
守られているのは  
私の方なのだ…

…っ…

ずる…

どうか笑って  
いてくれ…

心から…

もうお前の涙は  
見たくない…





破滅への道だと  
分かっていても…  
どうする事も  
出来ないんです…



そうだな…  
すまない…

泣かせてるのは  
あなたなのに…

ワッ



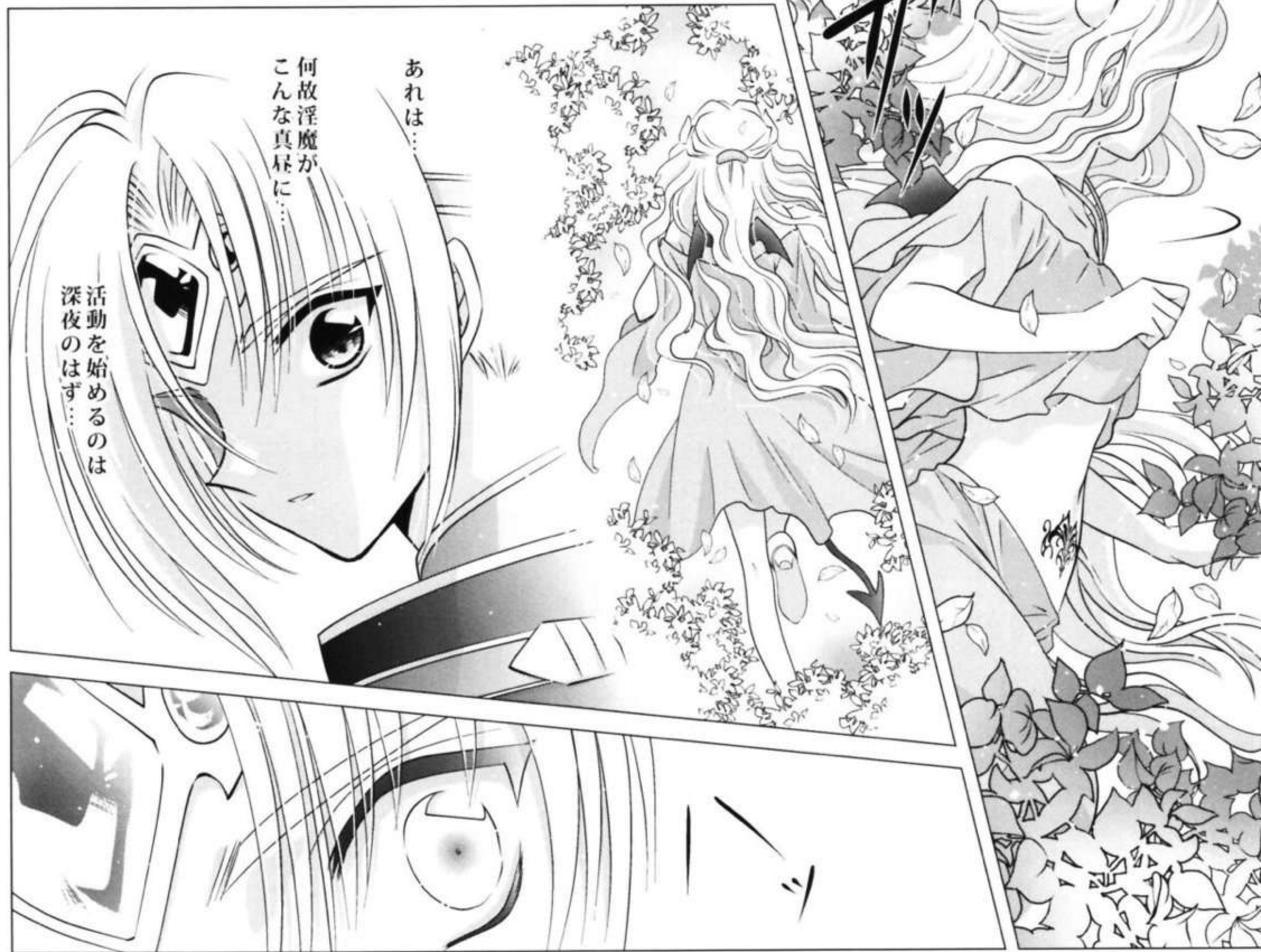
ハヤッ



すみません  
気にしないで  
下さい  
片想いが苦しい  
というだけの  
ただの泣き言  
ですから…

…破滅？  
それは  
どういう…

……



あれは…  
何故淫魔が  
こんな真昼に…

活動を始めるのは  
深夜のはず…



今の娘…  
まさかお前に…

違いますよ…

彼女は悪戯好きで…  
ああして時々俺を  
からかいて来るん  
です…

淫魔がわざわざ  
真昼にそのような  
戯れをするものか  
…!

分かっていながら  
何故目を背ける  
…!

『依存』など…  
あつてはならない  
のです…

俺は…彼女を  
縛る『鎖』になんて  
なりたくはない…

……  
それが…  
『破滅への道』…  
という事か…



あの娘を  
守りたければ、  
その心に従い、  
『道』を探せ……



だが『道』は  
一つではない



確かに  
『依存』が始まれば  
それを止める  
手立ては無い……



分かって  
います……

ええ……



口を閉じていろ！  
これはただの傷  
ではない！  
このままでは……

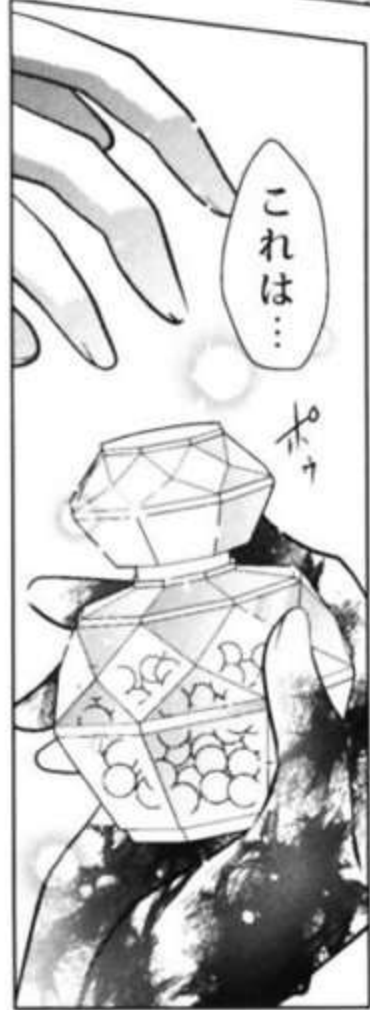
ど……しても……  
あなたに……頼み……

……すみま……せん……



呪いを断つには  
呪者を滅する  
しかない…

だが…もう…



これは…



それより…  
彼女を…追って…  
くださ…

これを…渡し…



…そう…

これは…「呪い」…



少しは…時間を…  
稼げる…と…

そばに…  
いてやれず…  
すまない…と…

…そして…

どう…か…  
生…き…



あの子の…家族を  
奪った…「報い」…



.....  
レイ.....











…こんなもの…

…いない…



ギ  
ギ



…レイ…

ほた

あなたのいない  
世界に…

一体なんの  
意味があるの…



レイ：  
お前はそうなる事を  
予見していたのか：

ただ命を繋ぐためだけの  
結晶など：  
なんの救いにもならぬ  
と：

『破滅への道』：  
それに抗う術など  
ありはしないと：

…？  
…クレフ…？

…大丈夫だ…  
何も…  
心配はいらない…

だが…  
それでも…



誓おう…

ウミ…  
お前の未来は私が  
必ず守ってみせると…

二度と一人になど  
させはしないと…



震えているの...



...いつか...

聞かせてね...




あなたが話したく  
なった時でいいから…

まだ頼りないかも  
しれないけど…  
私と一緒に悩むから…

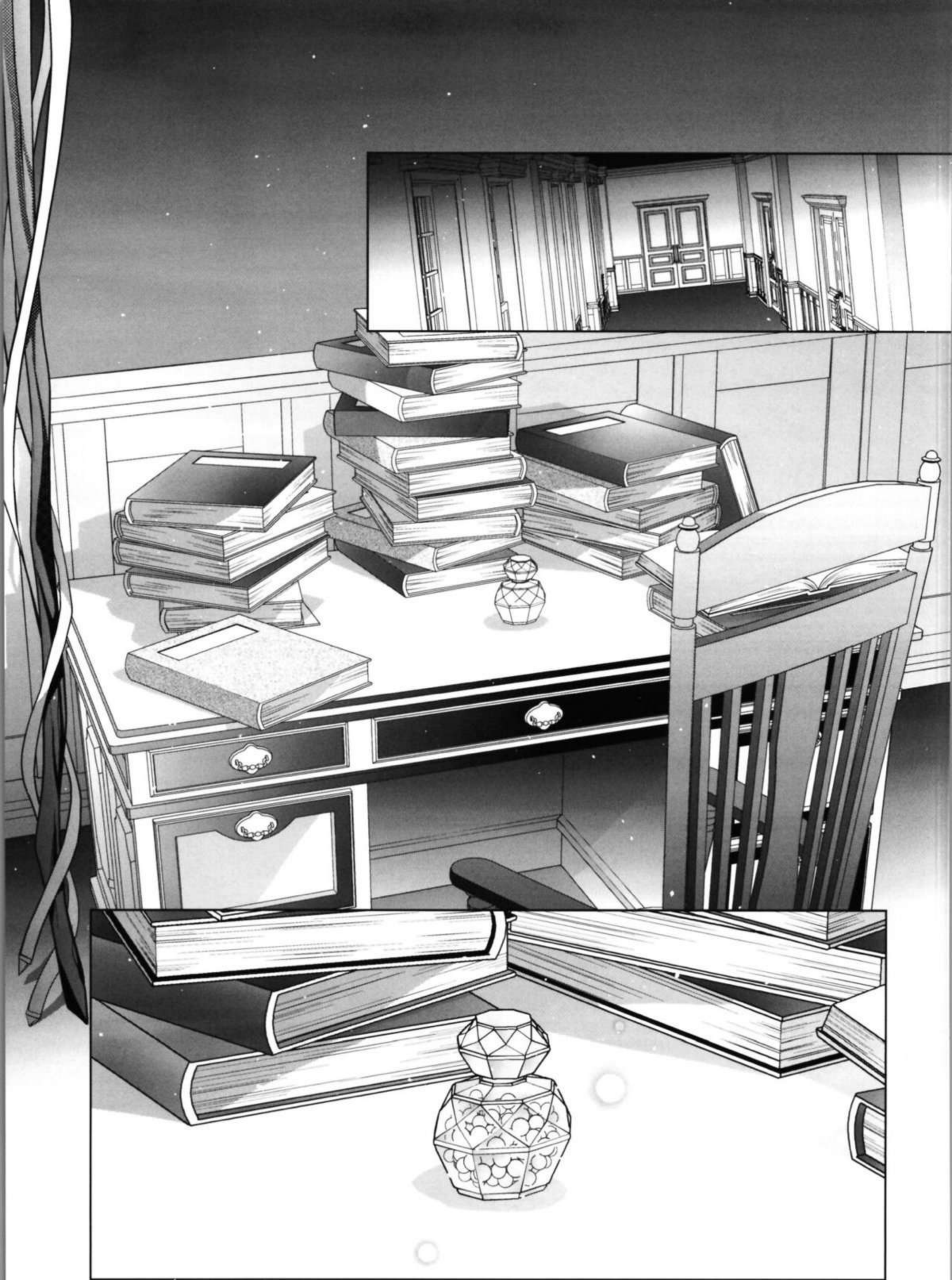
あなた一人で  
抱え込む必要  
なんて無い…

私があるの  
力になるわ…

ね？



.....あぁ.....



End

## ◆クレフの感情渋滞

海ちゃんを手放したくない気持ちと、もし相性が良かった場合の海ちゃんの未来を悲観する気持ちをごっちゃになって「逃がしたくないけど逃げてほしい」という矛盾した感情描写になっています。そもそも海ちゃんが魔族の血を引いてる以上、結界の影響がゼロというのはおかしいので、クレフさん自身薄々『相性の良さ』に気付いてたのかもしれませんが。初対面でベラベラ暴露しちゃってるのも案外一目惚れだった可能性？

## ◆海ちゃんの両親の安否

明確に死亡した描写はしなかった(したくなかった)ので個人的には生きてほしいなあと思ってます。とは言え、生きてるとしたら海ちゃん一人にしてどこにいるのかという疑問が…。イイ感じに脳内補完していただけると幸いです。

## ◆サキュバストリオ

外見はエイバマックス、アリアナグランデ、SIAをモデルにしています。殺すシナリオもあったんですけど、外見だけとは言え実在の人物がモデルなのでボツになりました。

## ◆ロリコン疑惑

これ放置してごめんなさい！  
魔界で噂になっちゃって10歳そこらのサキュバス達が結界の外に押し寄せてキャピキャピ黄色い声で騒いでイライラモヤモヤするクレ海とかカルディナに冷やかされるクレ海とか描きたかったです。因みにカルディナは魔導師タイプは好みじゃないのでクレフと対面しても平静です。好みは勿論剣闘師タイプ。

## ◆海ちゃんの初体験

初体験の海ちゃんが痛がってないのは淫魔の特性です。クレフさんは魔族が嫌いなので嫌いなりに習性とか色々学んでその事も知ってたんじゃないでしょうか。海ちゃんは混血だから断言は出来なかったと思いますが。

## ◆ラストのレイの結晶

レイの恋人(名前はたぶんセレナ)は結晶を使う前に死亡(自害)していたという描写です。分かりにくくてごめんなさい！  
クレフは結晶の製法を探している時に偶然レイの結晶を発見したのだと思います。中身が減っていない事を不審に思い独自に調査し、あの日自分が去った後にセレナが自害したと知り、二人の形見として持ち帰ったイメージ。クレフは将来自分が先立つ事があっても海ちゃんはそういう選択をしないと信じていると思いますが、それでも前例を知ってしまったので心の奥底で燻り続けていくだろうなど。暗い本なのでちょっと闇を含んだ終わり方でもいいかなとこんな締めくくりにしてみました。

## ◆クレフの涙

人生で初めて描きました。あ、断面も。←  
実は『依存』しているのは海ちゃんではなくクレフさんの方なんですよね。海ちゃんがいないと生きていけないのはどの世界線のクレフさんにも共通してるんですが、今回のクレフさんは孤独な引き籠り(語弊)だった分その度合いが強いです。

#### ◆クレフとセレナ

海ちゃん以外の女と二人きりのシーンなんか描きたくねーとか思いつつ、(当時の)クレフはセレナに一切同情しないどころか恨む気持ちすらあったぐらいの雰囲気描いたのでクレ海クラスタの皆様はご安心下さいませ。顔を合わせなかったのも私の拒絶反応によるものです。(w)でも目の毒だったらごめんなさい。

#### ◆セレナと少年悪魔

少年悪魔がレイを呪い殺した動機は怨恨だけではなく、セレナに一目惚れした末の嫉妬からという裏設定があったりします。『依存』の事を知らなかったので、レイの死が及ぼすセレナへの影響を全く想像できないまま嫉妬と憎しみで我を忘れ殺害を執行してしまったんですね。セレナの凶行も同様で、レイを救うためなら子どもを滅多刺しにしても構わないぐらいに『依存』が進行し自制心が失われています。

#### ◆レイと少年悪魔

レイは魔族の研究に熱心だったので悪魔でも淫魔でも魔獣でも捕獲して調べるのが習慣でした。少年悪魔の両親は元々不慮の事故で瀕死状態にありそれをレイが救おうと手を尽くしたけど残念ながら亡くなってしまい、誤解されてしまったのだと思います。

#### ◆クレフの年齢

実は決めてません。←

ジジイなのがクレフさんのアンデスティティ( )だとは思っていますが、今回はどちらでもお好みで！見た目は20代前半～半ばぐらいをイメージしています。ロリ海ちゃんは12歳前後で大人海ちゃんは17歳くらい。

#### ◆本のタイトル

今回は初の邦楽、懐かしの鬼束ちひろの楽曲から拝借させていただきました。この曲をタイトルにしようと思ってから内容がどんどん引っ張られていったので音楽の力って凄いなと思いました。(月並みなコメント)

#### ◆全体的に

今回の話、なんだか「猫嫌いのお父さんが子猫拾って渋々お世話してたら見事に懐柔されてデレデレに」っていうお約束パターンに似てませんか？w拾った後お風呂入れてご飯あげて脱走しても連れ戻して体調を心配して…ってw海ちゃんを魔族専門医の風ちゃんに診てもらうシーンも描きたかったです。

#### ◆最後に

だらだらと書き殴ってしまいましたが、ここで挙げたネタ全部漫画にしたなら1.5倍くらいのページ数になりそうだったのと、そこまでオリキャラの掘り下げは必要ないだろうって事でこのような形で補完させていただきました。それでもまだ矛盾やお見苦しい部分等あるかと思いますが、温かく見守っていただけると嬉しいです。最後までお読み下さりありがとうございます！

次のページからはyumiruさん(@oo\_lapislazuli)の個人誌「Succubus×Incubus」に寄稿させていただいた短編漫画となります。

鬱ムードから一転ほのほの愉快的なクレ海ちゃんをお口直し(?)にどうぞ！







本当に平気  
だってば!



ウミン…  
本当に  
平気なのか



だが…

あれから  
もう五日だぞ

そう言われても  
別に我慢してる  
わけじゃ…



あ、  
分かった!



しかしだな…  
成熟した淫魔は最低でも  
**三日に一度**は  
精気を補給する必要があるとこの魔族大全に…

私  
大人になった  
ばかりだし

まだ未熟な部分  
残ってるん  
じゃない?

きっとあなたが  
『大魔導師』  
だからよ！







あの一夜を  
忘れてしまった  
のか…？

一晩中何度も  
求めてしまうほど  
私を酔わせたのは  
お前だ…



かあ  
ああ  
あ

たった一度で  
『もう十分だ』と  
懇願するお前は  
実に愛らしかったな

ク、クレフが  
元気すぎるのよ…っ  
満腹で苦しいのに  
何回も中に…



クネ  
クネ

ひょい

そうだったな…  
すまない

だがそのおかげで  
より長く愛し合う  
ためには少々工夫が  
必要だという事が  
分かった

工夫って…

まさか…

というわけで

早速外出し工夫  
してみた

こら…  
口に入れるな

だって  
もったいない  
し…

お腹空いた…





心と体は裏腹  
と言うが…

ふん…



どうやらあまりに  
焦らしすぎると  
体が飢餓状態となり

本人の意思に関わらず  
強烈な締め付けと  
吸引で半ば強制的に…

そんな事日記に  
書かないでよ!!

あれに抗える男は  
恐らくこの世に  
存在しな…

クレフク!!

【結果】  
前半《♥♥》  
後半《玉砕》

おまけ

落ち込んだクレフを  
元気づけたい海ちゃん

み、見るだけ  
だからね……？

それは  
無理だ

ボク



このあと海ちゃんは  
減ってもいないお腹を  
限界までパンパンに  
されてしまいましたとき。  
めでたしめでたし。(最低)





初めましてorこんにちは。LAKIです。

2020年の年末から発行していたクレ海本も今回で6冊目です。

既に恥じらいも遠慮もほぼ皆無となってきましたが、

この度も色々と思いつきました。ごめんなさい！

シナリオを推敲していくうちにどんどんストーリーが暗くなって行ってしまってあまりにも当初予定していたお気楽な話とかけ離れていったので

自分でもちょっと怖かったですwおまけに初の100P超えw(∇°)

ここまでオリキャラが出張るのも初めてで色々な意味で緊張しています。

淫魔パロのネタは元々yumiruさん(@oo\_lapislazuli)の御本に

寄稿させていただく際にご提案いただいたものなので、

yumiruさんのお声掛けが無かったらこの本は生まれてません。

yumiruさんありがとうございました！

因みにオリキャラが多いのはマイナス要素のある役回りを公式キャラにさせたくなかったからなので許して下さい。

今見るとオリキャラカップルは疑似ザガエメっぽいですけどね。

なんだか本編は不穏な終わり方をしていますが、クレ海ちゃんはどんな困難も絶対に二人で乗り越えて末永く幸せに暮らしていきますのでご安心を！

というわけで最後までお付き合い下さりありがとうございました！

だいぶ暗い話となってしまいましたが、

ほんの少しでも楽しんでいただけましたら幸いです。

それでは、またいつかお会いできますように。

2023.03 LAKI

Magic Knight Rayearth Fan Book Vol.6

眩暈-MEMAI-

by Obsidian(LAKI)

SpecialThanks! STARBOOKS

この本は非公式ファンブックであり

原作者・出版社・各関係者様とは一切関係ございません。

あらゆる複製・転載を禁じます。

Repost is prohibited.

イラスト置き場



PIXIV

健全絵・お知らせ



Twitter

18禁・非公式カブ(BL含)



くるっぶ

